

赤い屋根まごころ基金会計報告 2021年度(2021年4月～2022年3月)

	(単位：円)
【前年度繰越金】	14,451,077
【収入】	
寄付金 125件	4,149,920
【支出】	
ボランティア活動費	430,302
市民公開イベント費	36,630
図書費	9,540,844
(外来待合、医療情報の庭、入院患者図書室、データベース)	
歩行器購入費	80,000
病棟/外来用備品・消耗品費	1,091,844
アシスタントロボットTemiリース費	1,248,500
(3年分)	
赤い屋根まごころ基金報告書印刷費	89,925
計	12,518,045
【翌年度繰越金】	6,082,952

ご寄付いただいた方

ご氏名の掲載は、承諾をいただいた方のみです(敬称略)

天津 康	小西 キヨ子	前原登美子
安藤 哲也	杉原 弘正	松尾 信次
安藤 秀一	杉山 真知子	矢野 稔
五百川 明雄	瀬政 義巳	山田 友
板谷 利昭	津軽 利紀	横川 勝弘
糸島 英彦	永原 隆・淳子	吉田 康弘
大塚 英一郎	永山 励	吉田 幸義
大橋 典晶	西山 悦子	渡辺 祥一
岡 桂子	林原 太津彦	割田 真人
黒木 良樹	早島 さかゑ	坪井 新
小谷 雄亮	藤井 隆幸	

クラブ株式会社

明治安田生命保険相互会社 矢野 稔

横浜幸銀信用組合倉敷支店 支店長 前川太志



赤い屋根まごころ基金

ご厚志を、未来へつなげる

【赤い屋根まごころ基金について】

当法人は、創立当初より、地域の皆さまへの社会貢献を目的の第一と考えて医療を行っています。

「赤い屋根まごころ基金」は、2004年12月の設立以来、皆さま方からのご厚志をお受けし、皆さまの病院としての活動をよりよくするために役立たせていただいています。

基金の趣旨をご理解のうえ、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

基金の取り扱いについて

1. 「赤い屋根まごころ基金」は、次のようなことに使わせていただきます。



① 地域の皆さまの健康づくり、病気の予防など。



② 明るく快適な病院環境にするための整備。



③ 病院で行う臨床研究に対する支援。



④ 職員の教育研修に対する支援。



⑤ ボランティア活動に関する支援。



⑥ ご寄付いただいた方のご要望事項。

2. 「赤い屋根まごころ基金」は、「基金制度運営委員会」で運営いたします。

3. 「赤い屋根まごころ基金」の活動内容(寄付金の受け入れ・使用状況など)については、ご寄付いただいた方をはじめ、広報いたします。

4. 「赤い屋根まごころ基金」へのご寄付は、「すべての人に平等に」という創立者の精神に基づき、誤解を招きやすい入院予定・入院中の患者さん、ならびにそのご家族からの寄付はご遠慮いただいています。個人の方の当法人へのご寄付については、確定申告により所得税の優遇措置が受けられます。当法人または法人施設のホームページをご覧ください。下記事務局にお問い合わせください。

「赤い屋根まごころ基金」のご案内

基金事務局(086-422-0210 経理課)または入院会計窓口
〒710-8602 倉敷市美和1丁目1番1号
https://www.kchnet.or.jp/oharahcf/kifu_akaiyane.aspx



公益財団法人
大原記念倉敷中央医療機構

100年前に創立した倉敷中央病院が1927年に独立採算制へ移行してから、当法人は一民間医療機関として補助金や交付金に頼ることなく、収入の9割以上が保険診療による診療報酬を財源としております。

質の高い医療を地域の皆さまに提供するため努力を重ねておりますが、その実現には継続した人材の育成や高度な医療機器が不可欠です。ただ、国の医療費抑制政策や、医療の高度化に伴う薬剤や医療機器の価格高騰で病院経営は厳しさを増しています。コロナ禍でも地域医療の最後の砦として、日夜を問わず職員が重症患者の治療に当たっています。

地域の医療の質向上のため、誠に恐縮ではございますが、皆さま方にお力添えを賜りたく、お願い申し上げます。

赤い屋根まごころ基金

ご厚志を、未来へつなげる



Message from Chairman

理事長より皆さまへ

公益財団法人
大原記念倉敷中央医療機構

理事長 浜野 潤

平素は当法人の活動にご理解・ご協力をいただき、まことにありがとうございます。

新型コロナウイルス禍をはじめ、これからの医療を取り巻く環境の大きな変化に対応していくためには、当法人の長い歴史に培われた伝統を生かしつつ、必要な改革を加えていく「伝統と革新」が必要です。常に創業の理念に戻りつつ、生じてくる諸課題に果敢に取り組むことで、地域の皆さまの健康に寄与していく所存です。

「赤い屋根まごころ基金」は、皆さま方と共に当法人をより良いものにしていきたい、皆さま方と共に歩み、進化する医療機関でありたいという思いで始めた基金でございます。この活動は、当法人が進める社会貢献をより実り多いものとするために大きな力となっています。

基金は専門の委員会でご適切に管理・運営し、快適な病院環境整備のためなどに使わせていただいています。2021年度は全職員向けオンライン医療情報購入の援助ほか、コロナ病棟へのアシスタントロボット導入、入院患者図書室用書籍消毒機や車いすへの点滴棒固定器具、院内デイサービス備品などを購入しました。

今後とも、皆さま方の基金へのお気持ちを十分に考慮して使わせていただきたいと思います。ご支援・ご賛同のほどよろしくお願い申し上げます。



What we do

当法人のトピックス

2021年4月～2022年3月

第5次中期経営計画スタート

2021年4月～2024年3月

「“地域統合型医療”エコシステム構築にハブ病院として中心的役割を果たす」という方針のもと、①高度先進医療②救命救急医療③高度なトリアージ④「デスティネーション医療」を提供できるチームづくり⑤「予防医療」を活用した先制医療という5つの機能の実現に向けて取り組んでまいります。

「倉中ならではの」5つの機能を発揮するために

- 高度先進医療に私たちの強み・資産を集中
- 院内共通のルールを浸透
- 診療科・職種同士で協力、隙間ない医療に
- 重症患者の受入に注力＝ICU 機能統合、重症症別病棟運用



新見市消防本部との ドクターカー試行運用開始 2021年6月

救急隊の連絡を受けて医師、看護師が当院救急車で搬送途中の指定場所へ向かい合流。医師、看護師が消防の救急車へ移乗し、治療しながら当院へ搬送します。新見市管轄の高エネルギー外傷患者さんを対象に運用開始しました。



コロナ禍での対応

岡山県の要請により中等症～重症の患者さんを受け入れるべく病棟を改築し、人員体制を整え対応しました。



新ICU・HCUが稼働 2021年12月1日

旧 CCU-C と CCU-S を新 ICU に、旧 ICU を HCU にそれぞれ変更し、稼働開始しました。ポストコロナを見据えた集中治療部門再編の一つで、より効率良く高度医療を提供できる体制作りが前進しました。



JCI 認証更新 2022年3月8日

国際的な医療機能評価機関である JCI (Joint Commission International) の認証を更新しました。コロナ禍での審査はオンラインと来院のハイブリッドで行われ、2019年に続く3度目の審査でも高い評価をいただきました。

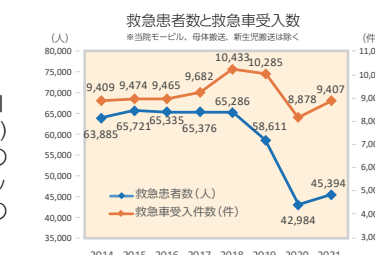
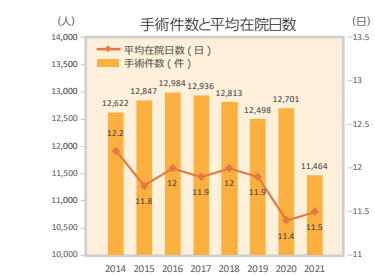


results

診療実績

一倉敷中央病院 2021年度

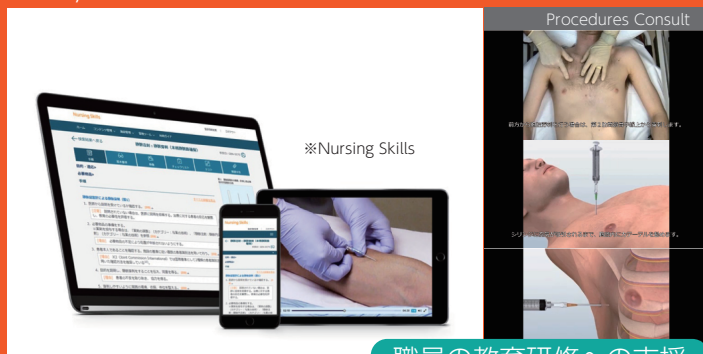
- 入院延患者数 344,860人 (1日平均 945人)
- 外来延患者数 620,836人 (1日平均 2,503人)



ご厚志をかたちに ー2021年度の基金活用実績より

全職員向けオンライン医療情報購入の援助

全職員の教育研修支援目的で導入している5つのツールについて、赤い屋根まごころ基金から2021年度の契約を援助しました。
医中誌 Web (国内医学論文情報のインターネット検索サービス)
SFX (文献検索の結果から本文へつなぐサービス)
Procedures Consult (臨床手技動画集)
Nursing Skills (看護手順動画集)
SafetyPlus (医療安全動画集)



職員の教育研修への支援

コロナ専用病棟へ アシスタントロボットを導入

AIアシスタンス機能を持った自律走行するパーソナルアシスタントロボット「Temi (テミ)」。

スタッフから「テミちゃん」と呼ばれるこのロボットがやってきたのは新型コロナ第4波が猛威を振るう2021年5月。この時期は施設でクラスターが発生したため当院に認知症のコロナ患者さんが多く入院され、ハイリスク、心肺停止になる、せん妄を起こす、看取りなど、現場は大変混乱していました。

レッドゾーンの入口すぐ近くにホームベースを設置。「ハイTemi、●●病室へ行って」グリーンエリアから看護師がスマホでTemiに行き先を伝え、指定された病室を訪室します。

訪室した先の患者さんと画面越しに会話したり、患者さんが好きな音楽や映像をTemiから流したりして、患者さんのご不安解消や回復に一役買いました。まるでペットのような愛らしさもあり、多忙を極めた看護師たちにとっては癒しにもなったそうです。



患者さんのための活用

書籍消毒機

当院は入院患者さん専用図書室を開設しています。コロナ禍でも安心してご利用いただけるよう、導入しました。3冊同時に紫外線を照射して殺菌・消毒、消臭。表装やページ間のゴミを風で飛ばし、60秒で完了します。取り出した本からはほのかに森林の香りが…。殺菌・消毒、消臭は返却ごとに実施します。安心してご利用ください。
※扉の窓はUVカットガラスです



患者さんのための活用

ボランティア活動支援

赤い屋根まごころ基金では、病院ボランティアの活動も支援しています。院内の生け花や患者さんのための手芸材料の購入費、小児科病棟の子どもたちのためのイベントなどに活用されています。ハロウィーンのパルーンアートもそのひとつ。お菓子入りのお化けパルーンを子どもたちにプレゼントすると、にっこり。皆さまのご厚志は患者さんの笑顔につながっています。



ボランティア活動に関する支援